



楓の巻

R3.12.15(第9号)
文責: 瀨上 佳宏

ある雨の日の「みんなの玄関」から

後期前半も残すところあと一週間余りとなりました。新型コロナで始まり新型コロナで終わりそうな令和三年ですが、「新設校開校」という一大プロジェクトに関わった一生忘れたいことができない一年間でもあります。

ところで、本校の高橋教頭と雑談をする中で、とても興味深い話を聞きましたので、今回はそれを話題にしたいと思います。

ある雨の日の朝、教頭が「みんなの玄関」を解錠し、校内に入ってくる子供たちと挨拶を交わしていると、玄関の中まで傘を差したまま入ってくる中学生がいました。教頭はその生徒を注意し、引き続き子供たちの様子を観察してみました。すると、傘を差してはいませんが、玄関の中まで水をポタポタ落としながら入ってくる子がいるかと思えば、玄関の外でできる限り水を落として（九州弁で言うところの「すためてこ」入ってくる子もいます。興味深いのはここからです。この行為の違いに「小学生・中学生の差は関係ない」ということです。つまり、雨水で玄関の中を水浸しにしても平気な中学二年生もいるし、水を「すためて」、少しでも玄関の水浸しを防ごうとする小学一年生もいるのです。一体この違いは何なのでしょう？

私は、その答えとして「家庭教育力」以外

に思いつく言葉はありませんでした。もし、ご家庭で玄関の外で傘の水を「すためる」という躰（しつけ）をされているなら、それは素晴らしいことです。しかし、私は直接的なそういう躰の結果ではないように思います。むしろ、その子のご家庭の中にある「周りに迷惑をかけたためには」や「みんなが気持ちよく生活するには」を当たり前のように考える文化や習慣が、雨の日の「みんなの玄関」、その外で水を「すためる」という自然な行為につながっているような気がしてなりません。

保護者の皆様は、中島栄治 合志市教育長が提言されている「志合わせて夢実現プロジェクト（略称「夢プロ」）をご存知ですか？ 本校HPにも掲載していますので、その中でも特に「提言2 家庭生活における『志合わせて夢実現』Homeプロジェクト」は、ぜひご確認ください。いきなりと思っと思っています。そこに掲げられた三つの目標、

- ① 先に挨拶と返事の「ハイッ」に取り組みましょう。
- ② 役割作りこそ居場所作りです。みんなで家事を分業しましょう。
- ③ 心を傾けたノーメディア会話を大切にしましょう。

この三つだけできればよいということではありません。この三つの目標が当たり前に行われるようなご家庭の文化や習慣が、お子様の健全な成長につながるであろう。夢プロはそういう提言だと私は解釈しています。

令和四年はコロナ禍が収束し、誰もが夢の実現を目指す年になることを願っています。どうぞ、よいお年をお迎えください。

上位独占！ 壁新聞コンクール

既にご承知と思いますが、熊日新聞コンクール中学新聞の部に本校から出品した三作品が、熊日賞・最優秀賞・優秀賞（第1〜3席）の上位を独占するという快挙を達成しました。詳細は学校HPに紹介していますので、そちらもご覧いただきたいと思えます。

校長として何よりも嬉しかったのは、「学校に対する誇りが感じられる」と評価されたことです。学校教育目標の「夢と誇りを持ち、自分らしく主体的に…」を体現してくれている生徒たちに、心から「ありがとう」と言いたいです。



初代生徒会長は誰に生徒会役員選挙

十七日（金）に本校初の生徒会役員選挙に係る討論会及び投票が行われます。選挙戦の状況も、随時、学校HPでお知らせしていきます。十人の立候補者の公約を読みましたが、全員に共通することは、「この学校を発展させたい」という強い思いや願いが込められていることです。その一方でその方策には各自の個性や特徴も表れています。初代生徒会長は誰になるのでしょうか。正直ドキドキしています。



学校HPのQRコード